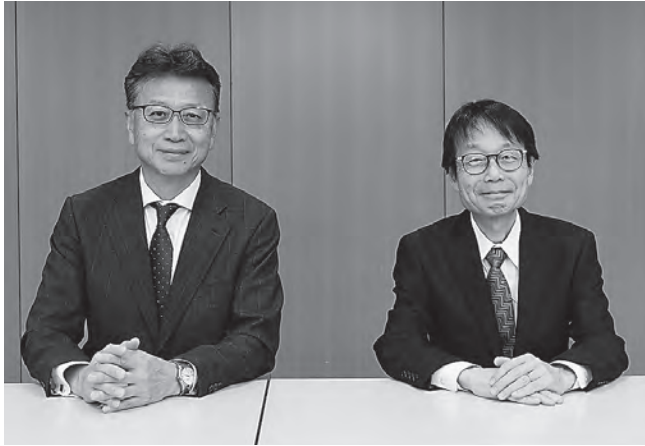


# 研究力兼ね備えた薬剤師育成

## 京都薬科大学創立140周年



左から木曾理事長と赤路学長

京都薬科大学は今年、創立140周年を迎えた。国公私立薬系大学の中でも有数の歴史と伝統を持つ大学として発展を遂げ、製薬企業や病院、薬局など各方面に幅広く多数の卒業生を輩出。伝統として受け継がれてきた「研究の京薬」も健在で、卒業生の社会での活躍を背景に、研究力を兼ね備えた質の高い薬剤師を育成する大学として、薬業界から高い信頼と評価を得てきた。今後、この強みをさらに伸ばす一方で、卒業生を含む社会人教育にも力を入れる計画だ。

京都薬大は、ドイツ人教師ルドルフ・レーマンの薫陶を受けた教員たちによって現在の京都市中京区に1884年に創立された。京都私立独逸学校が起源。その別科として開設された薬学科を廃して、1892年に私立京都薬学校を設立。1919年には同校を廃止して京都薬学専門学校が設立され、32年に京都市山科区に校舎を新築移転した。49年に学校教育法によって現在の京都薬大が設立された。

創立140年を迎えて木曾誠一理事長は「140年の歴史と伝統を今後も紡いでいかなければならない。先輩諸氏が築き上げてきたものをどう大きく昇華できるのか。本

当に大きな課題で、責任の重さを感じている」と語る。

### 研究の京薬は健在

#### 臨床系教育にも注力

赤路健一学長も「140年の間、本場に様々なことがあったと思う。教育環境が大きく変わったことが何回もあった。そこを頑張って乗り切り、現在に至っている。今はまさに似たような時期で、いかに次につなげていけるのか、すごく責任を感じている」と話す。

木曾理事長は「他の薬系大学に比べて相当、研究に力を入れている。それが一つの特色、強み。研究もできる人材を育成する」という視点で教育している私立薬系大学は「多くはない」と話す。

長年、伝統として受け継がれてきた、私立大学でありながら高い研究力を持つ「研究の京薬」は今も健在だ。

木曾理事長は「他の薬系大学に比べて相当、研究に力を入れている。それが優秀な教員を受け入れる土壌になり、研究に基づき発表する論文数は、年間1500報前後で、多い年は2000報近くになるという。

赤路学長も「それぞれ分野で個別に研究している」と、成果が認められるべく、論文も出している。一定の発展性をもった領域のテーマが必要で、それに向けてシナジーや共同研究体制の構築に注力している」と話す。

赤路学長は「実務実習を終えた後、さらに臨床現場で各施設の強みのある取り組みを実践的に深く学べるコースを設け、希望者が受講できる体制にした。この体制をさらに拡充し、それを踏まえて学内の臨床研究をアップデートしたい。例えば、これだけデータサイエンスが発展している。そこで新しい研究領域を作りたい」と語る。

6年制薬学教育に加え、大学院での教育や研究に力を入れていることも特徴だ。6年制薬学部の上記、大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(4年制、定員10人)を設置。全国的に大学院への進学

「40年の会社人生の中で仕事やそれ以外のありとあらゆる場面で卒業生に出会い、いろんな人に指導や支援、アドバイスをしてもらった。これが長い歴史を誇り、多くの卒業生を輩出している京都薬大の大きな強みだと実感した」と振り返る。

建学の精神に据えられた「愛学躬行」には、学問を愛し自ら実践するという意味が込められている。創立時の先人の想いを受けて、進むべき方向

赤路学長は「研究室に入った学生は、自分が何をしたいのか、何をしなければならぬのかを、教員と相談しながら探して取り組む。この過程が研究能力の育成につながる。基礎でも臨床でも、この研究能力は共有のもので、しっかり身につけておくと、企業でも病院でもどこに行っても融通が利く」と語る。

大学全体の研究力の高さを維持するため、各研究室には研究費を配分しているが、その額は「他

ス(科学)、アート(技術)、ヒューマニティ(人間性)をバランス良く備えた薬剤師の育成を教育目標に掲げる。

こうした人材育成を通じて、薬学をさらに前に進めようと社会に役立たいとの思いを、ブラ

だが、臨床系の教育にも力を入れている。その一環として今年度から、学生が5年次から6年次前期にかけて医療従事者や企業等の外部人材と連携し、臨床系の卒業研究に取り組み「実践薬学コース」を本格的に開始した。

卒業研究の一環で行う「総合薬学研究B」に、従来通り研究室での研究に關わる「探求薬学コース」と、医療に關わる実践的な観点を取り入れて研究に取り組む「実践薬学コース」を設定。実践薬学コースには、▽先端薬剤師▽地域・在宅医療▽医療DX▽データサイエンス▽学外共同研究の5ユニットを設けた。臨床系研究を志向する学生に心えるため、拡充に乗り出した。各ユニットの定員は5〜20人になる。

赤路学長は「実務実習を終えた後、さらに臨床現場で各施設の強みのある取り組みを実践的に深く学べるコースを設け、希望者が受講できる体制にした。この体制をさらに拡充し、それを踏まえて学内の臨床研究をアップデートしたい。例えば、これだけデータサイエンスが発展している。そこで新しい研究領域を作りたい」と語る。



先人たちの築いてきた140年という伝統を今後も守り続けるとともに、創立150周年を目指し、さらなる進化を続けていきます。

社会を動かす薬学へ。  
**京都薬科大学**

〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5  
075-595-4691(代表)  
<https://www.kyoto-phu.ac.jp>



京都薬科大学は、  
創立140周年を迎えました。



者が減少する中で、私立薬科大学でこれだけの定員数を設けている大学は少ない。しかも、定員は毎年ほぼ充足している。

### 学びやすい環境を整備

#### 高いストレート合格率

大学院には「基礎薬学」や「臨床薬学」等のコースがある。多様な医療関連分野で将来のリーダーに成り得る博士号を持った薬剤師を育成し、将来性のある研究領域の開拓に取り組む。

赤路学長は「大学院の修了者は、大学などアカデミアの教員や企業の研究職に就いたり、臨床の課題を発見し研究を実践できる人材として病院の薬剤部に就職したりするなど、多方面で活躍している。大学院に進む人をさらに増やしたい。研究者を育成できる大学は特に私立大学では限られている。本学の役割は大きい」と展望を語る。

木曾理事長は「アカデミア方面にもっと人を輩出できれば良い。本学にとっても将来の大学教育

や研究を担う人材を育て、教員として採用していただく大きなエコノミー」と強調する。

京都薬大はJ・R山科駅から徒歩10分とアクセスの良い現キャンパスで、老朽化した校舎を段階的に建て替えてきた。一連の工事は概ね完了し多くの校舎が刷新されたが、新棟の建設も予定する。

「学生がより良い環境で講義を受けられるように、新棟などで引き続き学びの環境を整備したい」と木曾理事長は言う。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けてオンラインでの講義を導入したが、感染症法の5類に移行後は京都薬大でも、移行後は京都薬大でも、できるだけ対面での講義や実習を行う体制に戻し

度面談して手厚く支えることが特徴だ。履修生はeラーニングで年間20本前後の講義を視聴したり、オンライン会議システムで演習を受けたりするほか、京都薬大キャンパスに出向いて演習や講義を受ける。綿密なカリキュラムに加え、メンターのきめ細やかな支援で、論文を読む力や論文検索方法、研究実践に欠かせない統計の知識等を修得できる。

### 生涯教育で研究実施支援



薬局や病院で働く薬剤師らがeラーニングプログラムで研鑽を積んでいる

「学生がより良い環境で講義を受けられるように、新棟などで引き続き学びの環境を整備したい」と木曾理事長は言う。

ハード面の整備に加えソフト面でも、京都薬大独自の奨学金制度や授業料減免制度を設け、学生が学びに打ち込める環境作りを進めている。

多くの専門・認定薬剤師の資格を取得したいが職場に指導者がいない中小病院や成の二環として従業員の履修を後押しして

「赤路学長は「社会人として多忙な日々を送る中で、大学院に行くというハードルは高い。それでも学びたいという意欲はある。その

間の埋める形でeラーニングプログラムを設けた。遠方の薬剤師から履修の申し込みがあるなど、認知度は高まってきた。今後、対応する教員を増やしたりして、丁寧な指導する現行の体制を維持したまま、履修生を増やすことを検討したい」と話す。

木曾理事長は「卒業生の多さや、様々なところで卒業生が活躍している本学の強みを活用したい。そのネットワークを生かして何ができるかを」と話している。

「赤路学長は「大学院の修了者は、大学などアカデミアの教員や企業の研究職に就いたり、臨床の課題を発見し研究を実践できる人材として病院の薬剤部に就職したりするなど、多方面で活躍している。大学院に進む人をさらに増やしたい。研究者を育成できる大学は特に私立大学では限られている。本学の役割は大きい」と展望を語る。

木曾理事長は「アカデミア方面にもっと人を輩出できれば良い。本学にとっても将来の大学教育や研究を担う人材を育て、教員として採用していただく大きなエコノミー」と強調する。

多くの専門・認定薬剤師の資格を取得したいが職場に指導者がいない中小病院や成の二環として従業員の履修を後押しして

「赤路学長は「社会人として多忙な日々を送る中で、大学院に行くというハードルは高い。それでも学びたいという意欲はある。その

間の埋める形でeラーニングプログラムを設けた。遠方の薬剤師から履修の申し込みがあるなど、認知度は高まってきた。今後、対応する教員を増やしたりして、丁寧な指導する現行の体制を維持したまま、履修生を増やすことを検討したい」と話す。

木曾理事長は「卒業生の多さや、様々なところで卒業生が活躍している本学の強みを活用したい。そのネットワークを生かして何ができるかを」と話している。

「赤路学長は「大学院の修了者は、大学などアカデミアの教員や企業の研究職に就いたり、臨床の課題を発見し研究を実践できる人材として病院の薬剤部に就職したりするなど、多方面で活躍している。大学院に進む人をさらに増やしたい。研究者を育成できる大学は特に私立大学では限られている。本学の役割は大きい」と展望を語る。

木曾理事長は「アカデミア方面にもっと人を輩出できれば良い。本学にとっても将来の大学教育や研究を担う人材を育て、教員として採用していただく大きなエコノミー」と強調する。

多くの専門・認定薬剤師の資格を取得したいが職場に指導者がいない中小病院や成の二環として従業員の履修を後押しして

「赤路学長は「社会人として多忙な日々を送る中で、大学院に行くというハードルは高い。それでも学びたいという意欲はある。その

間の埋める形でeラーニングプログラムを設けた。遠方の薬剤師から履修の申し込みがあるなど、認知度は高まってきた。今後、対応する教員を増やしたりして、丁寧な指導する現行の体制を維持したまま、履修生を増やすことを検討したい」と話す。

木曾理事長は「卒業生の多さや、様々なところで卒業生が活躍している本学の強みを活用したい。そのネットワークを生かして何ができるかを」と話している。

「赤路学長は「大学院の修了者は、大学などアカデミアの教員や企業の研究職に就いたり、臨床の課題を発見し研究を実践できる人材として病院の薬剤部に就職したりするなど、多方面で活躍している。大学院に進む人をさらに増やしたい。研究者を育成できる大学は特に私立大学では限られている。本学の役割は大きい」と展望を語る。

木曾理事長は「アカデミア方面にもっと人を輩出できれば良い。本学にとっても将来の大学教育や研究を担う人材を育て、教員として採用していただく大きなエコノミー」と強調する。

多くの専門・認定薬剤師の資格を取得したいが職場に指導者がいない中小病院や成の二環として従業員の履修を後押しして

「赤路学長は「社会人として多忙な日々を送る中で、大学院に行くというハードルは高い。それでも学びたいという意欲はある。その

間の埋める形でeラーニングプログラムを設けた。遠方の薬剤師から履修の申し込みがあるなど、認知度は高まってきた。今後、対応する教員を増やしたりして、丁寧な指導する現行の体制を維持したまま、履修生を増やすことを検討したい」と話す。

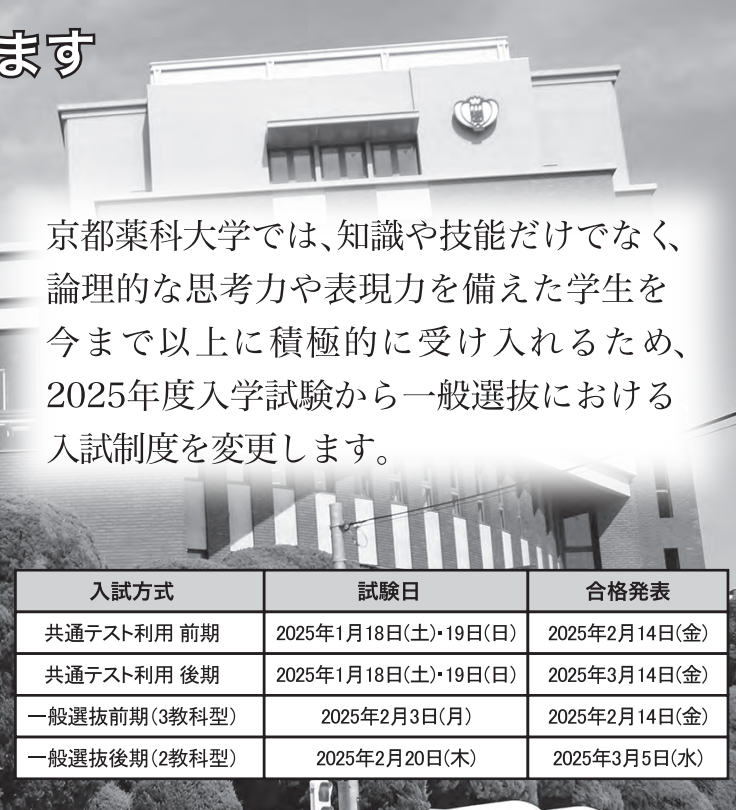
木曾理事長は「卒業生の多さや、様々なところで卒業生が活躍している本学の強みを活用したい。そのネットワークを生かして何ができるかを」と話している。

## 2025年度より新入試制度を導入します

2025年度一般選抜入試(下線部が変更箇所)

現在の名称	選抜方式	変更後の名称	予定募集人員	教科	科目
A方式	共通テスト利用前期*	共通テスト利用前期*	45	国語	国語(近代以降の文章のみ)
				数学	数学①(「数学Ⅰ、数学A」)、 数学②(「数学Ⅱ、数学B、数学C」)
				理科	化学(必須)、物理・生物から1科目選択
				外国語	英語(「リーディング」と「リスニング」)
C方式	共通テスト利用後期*	共通テスト利用後期*	5	数学	数学①(「数学Ⅰ、数学A」)、 数学②(「数学Ⅱ、数学B、数学C」)
				理科	化学
				外国語	英語(英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、 英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ)
B方式	一般選抜前期(3教科型)	一般選抜前期(3教科型)	150	数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B(数列、統計的な推測)、数学C(ベクトル)
				理科	化学基礎、化学
				外国語	英語(英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、 英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ)
新規	一般選抜後期(2教科型)	一般選抜後期(2教科型)	20	数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B(数列、統計的な推測)、数学C(ベクトル)
				理科	化学基礎、化学
				外国語	英語(英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、 英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ)

\*科目名については大学入学共通テストの実施科目名を表示



京都薬科大学では、知識や技能だけでなく、論理的な思考力や表現力を備えた学生を今まで以上に積極的に受け入れるため、2025年度入学試験から一般選抜における入試制度を変更します。

入試方式	試験日	合格発表
共通テスト利用 前期	2025年1月18日(土)・19日(日)	2025年2月14日(金)
共通テスト利用 後期	2025年1月18日(土)・19日(日)	2025年3月14日(金)
一般選抜前期(3教科型)	2025年2月3日(月)	2025年2月14日(金)
一般選抜後期(2教科型)	2025年2月20日(木)	2025年3月5日(水)

